

発達障がい児に対する対応などを学ぶ

西原町要保護児童対策地域協議会が主催する「発達障害児の特性とその対応及び保護者の障害受容と虐待の背景について」と題した講演会が、8月9日に西原町中央公民館の大ホールで開催されました。講演会は、臨床発達心理士として活躍する横田敦氏（横浜市教育委員会カウンセラー等）を東京から招き、2回に分けて行われました。

1回目の講演では、小中学生と関わる学校教諭や町教育委員会の職員などが参加。通常の学級での対応を中心に、講話を聞きました。2回目の講演は、0歳から5歳までの幼児期における対応などをテーマに行われ、保育士などが参加しました。2回の講演で約300人の参加者があり、参加者は「話を聞いて霧が晴れたような気持ち」、「子どもたちの気持ちが分かり、参考になった」などの意見が寄せられました。



講演した横田敦氏

海外短期留学で、たくさんの学び ～平成25年度 西原町中学生海外 短期留学派遣事業帰国報告会～



7月25日から8月7日の日程で実施された西原町中学生海外短期留学派遣事業に参加した生徒たちの帰国報告会が、8月28日に町立図書館で行われました。

同事業は、町教育委員会とNPO法人西原町人づくり支援の会（新川武雄理事長）が支援して行われています。今回は、ハワイ州オアフ島で約2週間の短期留学を終えた10人の生徒が、現地で経験したことや学んだことを報告しました。生徒たちは「海外という壁がなくなった」、「英語の大切さが分かった」など、英語を交えながら発表。機会を提供した家族や関係機関への感謝の言葉を述べました。また「今後の自分の人生に生かしていきたい」などの抱負もあり、成長した姿を見せた報告会となりました。

まちの話題

2013

西原小音楽部が金賞を受賞!



7月15日に行われた第68回九州合唱コンクール沖縄県予選で、西原小音楽部が金賞を受賞しました。この結果、9月21日に開催された第5回九州合唱コンクール（長崎県）の小学校部門に出場しました。

また、大会派遣にかかる派遣費用の一部を、西原町人財育成会が助成しました。

沖国大へリ墜落事件の資料を展示



2004年（平成16年）に起きた沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事件の際に、県民が撮影した写真などを集めた写真展「私の見た壁～1000の記憶～沖国大へリ墜落から9年」（同実行委員会主催）が、8月13日から18日に西原町立図書館で開催されました。

写真展では、事件発生時に撮影したものや火災により黒焦げになった建物の写真など、約500点が展示されました。初日は、事件が発生した日からちょうど9年目にあたる日となります。主催者の一人は「事件の記憶を風化させないため、多くの人に見てもらいたい」と、写真展への思いを語りました。

東日本大震災の支援活動に対し、 大臣からの感謝状を贈呈



東日本大震災の被災者支援のために実施した活動に対し、沖縄日野出株（平良盛也代表取締役社長）に厚生労働大臣から感謝状

が贈られることになり、8月15日に町役場で伝達式が行われました。

同社は震災発生後の4月に除菌ウエットタオル200ケース（19,200個）を、支援物資として被災地に無償提供しました。平良社長は当時を振り返り「被災地は衛生的に厳しい状況と聞き、自社で扱っているウエットタオルをかき集めて送った」と説明。上間明町長は「きわめて有効、有用な支援物資だったと思う」と称えました。

電気自動車の充電設備が国の認定を受ける

株電装技研（渡慶次道安代表取締役）が開発した電気自動車の家庭用充電設備が、次世代自動車の普及のための補助対象設備として認可されたことを受け、8月30日に西原町役場を訪れ、上間明町長に報告しました。

今回の決定は、経済産業省から委託を受けている（一社）次世代自動車振興センターの審査を経て、認可されたものです。

同社が開発した充電設備は一般家庭用として作られたもので、すべての電気自動車に対応しています。この認可により、一般のユーザーが購入する際には補助金を活用できるようになりました。このような充電設備は、自動車メーカーが直接自社で開発しているのがほとんどのため、今回の決定は沖縄の企業としては初めてで、全国的にも自動車メーカー以外の事業者が単独で認可を受けるのはあまり例がないとのこと。

報告を受けた上間明町長は「産業構造の大きな転換期にある中、時代の最先端にある電気自動車という分野で通用するものづくりの企業が町内にあり、このように評価されたことはとても誇りに思う」と、関係者を激励しました。



沖縄の歴史変遷を学ぶ～歴史講演会～

ニシバル歴史の会（長嶺一男会長）が主催する「おきなわはどのようにして日本になったのかー琉球・沖縄のアイデンティティを求めてー」と題した歴史講演会が、8月25日に西原町立図書館で開催されました。講師には、沖縄大学客員教授の新城俊昭氏を招き、100名以上が参加しました。新城氏は「琉球」が解体されて「沖縄県」へと移り変わる歴史の背景、沖縄をめぐる日本と中国との争い、日本に帰属した経緯を分かりやすく丁寧に解説しました。



南西石油の防災訓練に、近隣住民が参加

南西石油㈱で自然災害時に事故が発生したことを想定した防災訓練が、8月28日に同社構内で実施されました。今回の訓練は、地震が発生したことによる原油タンクの火災、原油の流出などを想定して行われました。

この訓練は3年に1度、定期的に行っているもので、近隣地域に住む住民の避難訓練も同時に実施されました。避難対象となった小那覇、掛保久、嘉手苅区の住民に対し、町役場が防災行政無線を通じて避難を呼びかけ、約40名の住民が避難場所となった嘉手苅公民館へ避難しました。



南西石油構内での火災の消火訓練